



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 セーレン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3569 URL <https://www.seiren.com>
 代表者（役職名）代表取締役会長兼最高経営責任者（氏名）川田 達男
 問合せ先責任者（役職名）取締役専務執行役員 業務統括本部長（氏名）勝木 知文 TEL 0776-35-2111
 半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 2025年11月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）
 （百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	80,983	3.8	10,259	24.8	10,915	20.4	7,972	18.8
2025年3月期中間期	78,033	17.1	8,221	36.4	9,069	12.8	6,710	16.5

（注）包括利益 2026年3月期中間期 4,961百万円（△59.1％） 2025年3月期中間期 12,142百万円（△2.5％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	135.78	134.93
2025年3月期中間期	120.05	116.39

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	198,729	146,902	73.5	2,482.60
2025年3月期	199,223	143,882	71.7	2,437.38

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 145,996百万円 2025年3月期 142,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	30.00	—	38.00	68.00
2026年3月期	—	38.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	38.00	76.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	162,700	1.9	20,000	11.9	21,200	10.0	15,200	9.4	258.69

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期中間期	64,633,646株	2025年3月期	64,633,646株
2026年3月期中間期	5,825,848株	2025年3月期	6,002,941株
2026年3月期中間期	58,713,559株	2025年3月期中間期	55,895,840株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における経済環境は、雇用・所得状況の改善などにより緩やかな回復が続いた一方、物価上昇や米国の通商政策などによる景気の下振れリスクが継続し、依然として先行き不透明な状況となりました。

このような不確実性の高い経営環境においても、当社グループは、中期方針「未知の可能性への挑戦！」に基づき、変化し続けるお客様ニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“イノベーションと顧客開発”及び“企業体質の再建”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力等、非財務価値を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当中間連結会計期間の連結業績は、売上高809億83百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益102億59百万円（同24.8%増）、経常利益109億15百万円（同20.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益79億72百万円（同18.8%増）となり、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益は中間期として過去最高となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりです。なお、当中間連結会計期間より、報告セグメントの区分を一部変更しています。以下は前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

国内事業について、カーシート材は国内自動車メーカーの生産停止の影響を受けた前年の反動で受注が増加したものの、研究開発費の増加などにより増収・減益となりました。

海外事業（2025年1～6月）について、アメリカでは合皮の売上が好調であった前年の反動で減少しました。一方、メキシコでは新規車種立上げに伴い受注が拡大し、アジア地域でもファブリック及び合皮によるカーシート材の売上が増加しました。さらに、各拠点における品質改善や経費削減活動が功を奏し、増収・増益となりました。

その結果、車輛資材事業全体では、増収・増益となりました。当事業の売上高は555億34百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益80億97百万円（同23.9%増）となりました。

(ハイファッション事業)

アパレル業界において環境に配慮したモノづくりへの関心が高まるなか、当社は差別化商品を小ロット・短納期・在庫レスで製造する独自の「Viscotecs®」を活用したビジネスモデルの展開に加え、リサイクル素材や生分解性素材の開発・製造を進めております。

単体では、スポーツやアウトドア向け素材が好調に推移しました。KBセーレン(株)においては、不採算商品の見直しを行ったことにより、増益となりました。

その結果、ハイファッション事業全体では増収・増益となりました。

当事業の売上高は105億91百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益7億1百万円（同22.0%増）となりました。

(エレクトロニクス事業)

ゲーム機やモバイル端末向け商材が順調に推移したほか、人工衛星の売上が寄与したことなどにより、単体では増収・増益となりました。

KBセーレン(株)においては、海外半導体メーカー向け防塵衣用導電糸「ベルトロン」やデータセンター・半導体市場向け光ファイバーコネクタ清掃用資材が順調に推移しました。一方で、エンブラ繊維「ゼクシオン」が伸び悩みました。

また、セーレンアドバンストマテリアルズ(株)（旧社名：セーレンKST(株)、2025年11月1日付で社名変更）においては海外向けシリコンウェーハの酸化膜加工やベアウェーハの販売が順調に推移しました。

その結果、エレクトロニクス事業全体では増収・増益となりました。

当事業の売上高は65億1百万円（前年同期比18.3%増）、営業利益は14億6百万円（同55.3%増）となりました。

(環境・生活資材事業)

病院・介護施設向けベッド商材については、厚生労働省の病床数適正化支援事業などの影響により、売上が減少しました。また、ハウジング関連では住宅着工戸数減少の影響を受け、住宅向け資材が苦戦しました。一方、KBセーレン(株)においては民生資材の売上が回復し、セーレン商事(株)においては大型工事受注により売り上げが伸張しました。

その結果、環境・生活資材事業全体では減収・減益となりました。

当事業の売上高は47億66百万円(前年同期比1.4%減)、営業利益は3億87百万円(同10.0%減)となりました。

(メディカル事業)

サポーター等の健康・医療資材が堅調に推移しました。KBセーレン(株)においては、絆創膏用途の「エスパンシオーネ」の売上が増加したものの、貼布材が伸び悩みました。

その結果、メディカル事業全体としては減収・増益となりました。

当事業の売上高は32億9百万円(前年同期比4.4%減)、営業利益は3億11百万円(同8.8%増)となりました。

(その他の事業)

(株)ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレン商事(株)の保険代理業は堅調に推移しました。

当事業の売上高は3億78百万円(前年同期比2.7%増)、営業利益は2億70百万円(同1.0%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して4億94百万円減少の1,987億29百万円となりました。流動資産は、現金及び預金や有価証券の減少などにより、前連結会計年度末と比較して72億14百万円の減少となりました。固定資産は、投資有価証券が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して67億19百万円増加しました。負債の部は、支払手形及び買掛金の減少や借入金の純減などにより、35億14百万円減少し、518億26百万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定の変動があった一方、利益剰余金が増加したことなどにより、全体で30億19百万円増加し、1,469億2百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は382億25百万円となり、前連結会計年度末より20億91百万円減少しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、58億7百万円の収入(前年同期は88億55百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が107億87百万円あった一方、売上債権の増加18億18百万円、仕入債務の減少10億8百万円があったことなどによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、26億61百万円の支出(前年同期は68億65百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が42億52百万円あった一方、定期預金の純減による収入が37億15百万円あったことなどによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、37億75百万円の支出(前年同期は17億33百万円の支出)となりました。これは主に、借入金の純減による支出14億49百万円、配当金の支払による支出22億27百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、米国の通商政策や地政学リスク、為替動向等、先行き不透明な要素があるものの、当中間連結会計期間の業績が過去最高であり、今後、車輛資材事業やエレクトロニクス事業を中心に業績が堅調に推移すると判断したことから、2025年8月4日に公表した通期の業績予想を上方修正いたします。

なお、ユニチカ(株)の繊維事業買収による影響につきましては、現時点で合理的な算定が困難なため、今回の業績予想には織り込んでおりません。現在、詳細を精査しており、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2026年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 160,000	百万円 19,200	百万円 19,800	百万円 14,300	円 銭 243.38
今回修正予想 (B)	162,700	20,000	21,200	15,200	258.69
増減額 (B - A)	2,700	800	1,400	900	
増減率 (%)	1.7	4.2	7.1	6.3	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	159,653	17,865	19,277	13,887	242.29

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,028	38,721
受取手形、売掛金及び契約資産	42,222	42,162
有価証券	8,891	6,107
商品及び製品	16,089	15,415
仕掛品	4,489	5,413
原材料及び貯蔵品	8,808	7,848
その他	3,546	4,192
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	127,064	119,849
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	25,813	24,779
機械装置及び運搬具 (純額)	14,632	14,091
工具、器具及び備品 (純額)	888	988
土地	13,144	13,056
建設仮勘定	1,748	4,136
有形固定資産合計	56,228	57,052
無形固定資産		
のれん	318	238
その他	3,097	2,846
無形固定資産合計	3,415	3,084
投資その他の資産		
その他	12,624	18,845
貸倒引当金	△108	△103
投資その他の資産合計	12,515	18,741
固定資産合計	72,159	78,879
資産合計	199,223	198,729
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,492	21,419
1年内償還予定の新株予約権付社債	90	—
短期借入金	4,816	1,096
未払法人税等	2,719	1,694
賞与引当金	1,787	2,035
その他	7,607	8,075
流動負債合計	40,513	34,321
固定負債		
長期借入金	5,516	7,787
役員退職慰労引当金	119	119
株式報酬引当金	170	292
退職給付に係る負債	6,319	6,229
その他	2,702	3,076
固定負債合計	14,827	17,505
負債合計	55,340	51,826

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年 3 月31 日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月30 日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	19,976	20,040
利益剰余金	95,792	101,536
自己株式	△10,677	△10,357
株主資本合計	122,611	128,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,985	5,304
為替換算調整勘定	16,103	11,720
退職給付に係る調整累計額	205	231
その他の包括利益累計額合計	20,293	17,256
新株予約権	465	465
非支配株主持分	511	440
純資産合計	143,882	146,902
負債純資産合計	199,223	198,729

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	78,033	80,983
売上原価	56,912	58,131
売上総利益	21,121	22,852
販売費及び一般管理費	12,900	12,593
営業利益	8,221	10,259
営業外収益		
受取利息	521	478
受取配当金	128	174
為替差益	823	—
補助金収入	133	107
その他	112	76
営業外収益合計	1,719	837
営業外費用		
支払利息	132	60
有価証券評価損	729	111
為替差損	—	5
その他	8	4
営業外費用合計	871	181
経常利益	9,069	10,915
特別利益		
固定資産売却益	16	15
特別利益合計	16	15
特別損失		
固定資産処分損	4	95
減損損失	—	49
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	12	144
税金等調整前中間純利益	9,073	10,787
法人税等	2,321	2,776
中間純利益	6,752	8,010
非支配株主に帰属する中間純利益	41	38
親会社株主に帰属する中間純利益	6,710	7,972

中間連結包括利益計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	6,752	8,010
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△576	1,319
為替換算調整勘定	5,996	△4,394
退職給付に係る調整額	△30	25
その他の包括利益合計	5,389	△3,049
中間包括利益	12,142	4,961
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	12,079	4,934
非支配株主に係る中間包括利益	63	26

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	9,073	10,787
減価償却費	2,935	2,943
固定資産処分損益 (△は益)	△11	79
投資有価証券評価損	7	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△5
賞与引当金の増減額 (△は減少)	55	247
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△102	△52
受取利息及び受取配当金	△649	△652
支払利息	132	60
為替差損益 (△は益)	△648	△285
売上債権の増減額 (△は増加)	2,027	△1,818
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△193	15
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,640	△1,008
未払消費税等の増減額 (△は減少)	6	△207
その他	361	△764
小計	11,349	9,337
利息及び配当金の受取額	561	693
利息の支払額	△135	△82
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,920	△4,141
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,855	5,807
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,275	△4,252
有形固定資産の売却による収入	90	23
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△5,058	△2,217
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	500	102
定期預金の純増減額 (△は増加)	△110	3,715
その他	△10	△31
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,865	△2,661
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	3,500	3,100
長期借入金の返済による支出	△1,512	△4,549
自己株式の取得による支出	△2,051	—
配当金の支払額	△1,659	△2,227
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△3
非支配株主への配当金の支払額	△9	△93
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,733	△3,775
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,949	△1,461
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,206	△2,091
現金及び現金同等物の期首残高	37,545	40,317
現金及び現金同等物の中間期末残高	39,752	38,225

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント(注) 1						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算 書計上額 (注) 3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	53,863	10,112	5,496	4,835	3,357	77,664	108	77,773	—	77,773
その他の収益	—	—	—	—	—	—	259	259	—	259
外部顧客への 売上高	53,863	10,112	5,496	4,835	3,357	77,664	368	78,033	—	78,033
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	39	145	133	6	324	285	610	△610	—
計	53,863	10,151	5,641	4,969	3,363	77,989	654	78,643	△610	78,033
セグメント利益	6,538	575	905	430	286	8,736	273	9,009	△788	8,221

II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント(注) 1						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算 書計上額 (注) 3
	車輛資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	55,534	10,591	6,501	4,766	3,209	80,604	118	80,722	—	80,722
その他の収益	—	—	—	—	—	—	260	260	—	260
外部顧客への 売上高	55,534	10,591	6,501	4,766	3,209	80,604	378	80,983	—	80,983
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	33	177	201	7	420	323	743	△743	—
計	55,534	10,625	6,679	4,967	3,217	81,024	701	81,726	△743	80,983
セグメント利益	8,097	701	1,406	387	311	10,905	270	11,175	△916	10,259

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

(1) 車輛資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)

(2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工

(3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウェーハの成膜加工等、人工衛星

(4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材

(5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前中間連結会計期間791百万円、当中間連結会計期間898百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、組織体制の変更ならびに一部製品の対象セグメント見直しに伴い、報告セグメントの区分を変更しております。

また、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。